

共生社会被災者支援の会 臨時事務局会議
議事録

日 時 2011年6月23日(木) 午後6時00分から

場 所 梅田サテライト 112号教室(北新地駅真上、大阪駅前第二ビル6階)

参加者 柏木宏(教員)、阪野修、坂口一美、尾崎力、藤井伸二、空千秋、新家潤子、後藤陽子

《開催目的》

大阪府の「新しい公共の場づくりのためのモデル事業 震災対応案件」の助成金申請を行なうにあたり、企画提案書の確認を行なった。

1) 企画提案書の確認および見直しについて(柏木先生)

◆ 大阪市との連携による役員などの見直し

今回の申請には自治体と協働していることが必須条件となっているため、大阪市に打診したところ協力を得ることができた。但し、大阪市の関係者との連携による事業ということで大阪市と関係する人々による事業という色彩にする方が妥当との判断、ならびに気仙沼の協力者が具体化したこともあり、急遽役員などの追加を行なった。その結果、以下の方々が役員などのリストに加わることとなった。

【監事】

澤田有紀 氏(弁護士・弁護士法人みお総合法律事務所)

【アドバイザーボード】

岡村こず恵 氏(社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局・主幹)

松尾浩樹 氏(大阪市社会福祉協議会大阪市ボランティア情報センター・主査)

矢野裕俊 先生(大阪市教育委員会・委員)

広瀬雄樹 氏(積水ハウス・CSR室長)

【青少年プロジェクト】

代表: 松野雅一(がんばろう!つばさネットワーク・代表、東淀川区大桐地域はぐくみネット・コーディネーター)

副代表: 藤井伸二(NPO法人国際交流地域実行委員会・事務局員)

【SNG支援プロジェクト】

代表: 水野博達 先生(社会福祉法人ふれあい共生会・理事、特別養護老人ホーム花嵐・元施設長)

副代表: 河内崇典 氏(NPO法人み・らいず・代表理事)

【復興支援プロジェクト】

代表: 佐野美保 氏(トラベルジャーナル学園ホスピタリティツーリズム専門学校・副校長)

副代表: 村尾佳子 氏(グロービス経営大学院・大阪校&名古屋校統括リーダー)

なお、その他、上記の3つのプロジェクトの気仙沼パートナーとして以下の方々が役員に加わった。

【青少年プロジェクト】

熊谷幸雄（宮城県高等学校 PTA 連合会・副会長）

伊東毅浩（気仙沼市教育委員会学校教育課・課長補佐）

【SNG 支援プロジェクト】

小野寺美厚（NPO 法人ネットワークオレンジ・代表理事）

【復興支援プロジェクト】

遠藤宏樹 氏（宮城県気仙沼地方振興事務所地方振興部・進行班・次長）

熊谷俊輔 氏（気仙沼観光コンベンション協会・主事）

◆ 申請予算について

申請予算について確認したところ、気仙沼高校教員、生徒、父兄の滞在費ならびに大阪から気仙沼入りするボランティアの滞在費について、ホームステイなのか宿泊施設を利用するかによって実態に即した金額に修正した。

また、通信費についても携帯電話とインターネット利用料について不足が指摘され増額した。

2) 気仙沼高校生の大阪招待について（藤井さん）

8月2日～5日の気仙沼高校生の来阪にあたっては北摂つばさ高校が共催して受け入れる。既に玉島地区に対してホスト家族の募集（7/4ㄨ切）を行っており、他にも宿泊所や車両の使用についてお寺や民間企業からの協力を得ている。当会は共催団体としてその受け入れを支援する。

ただし、気仙沼からの交通手段について排ガス規制などで大阪府内に入ることができないなどの問題も指摘されており、交通手段の変更も含めてさらに調整が必要である。

3) 気仙沼来訪報告（坂口さん）

6月6日～8日と6月14日～19日の計9日間、石巻、南三陸町、気仙沼へ訪問。

気仙沼市内は全体的に落ち着いているものの、瓦礫の撤去作業などが開始されたため逆に危険度は高くなっているのと、悪臭がひどい状態。

今回の気仙沼訪問では、経済復興についての支援課題や高齢者介護団体との連携、大島の民宿での宿泊、復興協会主催の屋台村やネットワークオレンジとの調整、北摂つばさ高校への気仙沼高校生来阪の件について、調査および関係者との調整を行なった。

経済復興についての支援課題調査

既に全国の消費者から資金を募って「一口オーナー制度」を活用した本格的なカキの養殖が再開されている。しかし、海の安全性に懸念がもたれている。

高齢者介護団体との連携

気仙沼市内で多くの介護施設が被災しており、診療所などの空き病棟を借りて介護にあっている。主だった12ほどの事業所の半数が廃業中で他の施設が割増して入所者を受け入れているとのこと。今後、気仙沼市の高齢福祉課の方が情報提供してくださるとのこと。

復興協会主催の屋台村、大島の現況調査

現在、気仙沼市内では復興関連の仕事がたくさんあり、気仙沼復興協会（仕掛け人：守谷氏）が市内在住で仕事をなくした人を対象に登録制で緊急雇用対策事業への派遣を行うなど効率的に仕事につなげる役割を担っている。

復興屋台村気仙沼横丁（仮称）プロジェクトについては、7月出店者募集を行い8月下旬から9月初旬開業予定である。他にもGANBAARE株式会社や名物の気仙沼ホルモンのお店も再開している。

大島については小野寺容氏の案内により訪問が実現したが、大島は気仙沼市に比べ比較的空気が綺麗であった。現地で「大島復興チーム（おばか隊）」と会い、今後大島での宿泊やボランティア活動に関して協力を得ることができそうである。

ネットワークオレンジ関係について

柏木先生から依頼のあった現地ボランティアについては受け入れ可能、宿泊等も確保できた。

北摂つばさ高校、気仙沼高校生徒来阪について

上記2)で述べたような状況であり、現在、気仙沼高校と打ち合わせ中である。

以上、文責 後藤